第５講　倫理総まくり②

入試にはこう出る！　　西洋近現代思想・現代社会の課題

1　15世紀イタリアの人文主義者ピコ＝デラ＝ミランドラは，人間の尊厳の根拠を，自由な意志によって，自分自身のあり方を決めることができる，という点に見いだした。

2　ルターは，人は信仰によってのみ義とされると説き，内面的で純粋な生き方を勧めた。

3　モラリストのパスカルは，考えることに人間の尊厳を見いだし，特に，人間のあり方や事柄の本質をとらえるためには，推理や論証を行う能力だけではなく，直感的に物事を把握する能力が必要であるとした。

4　イギリス経験論のベーコンは，中世のスコラ哲学に代わる新しい学問を模索し，普遍的真理から出発して自然現象を数学的に説明する方法を提唱した。

5　大陸合理論のデカルトは，無限実体である神から区別された有限実体は，思惟を属性とする精神と，空間的な広がりである延長を属性とする物体から成り，精神と物体は互いに独立に存在すると考えた。。

6　ホッブズ（英）は，自然状態では，人間は互いに孤立したまま生きているが，自己を愛するだけでなく他人への憐みの情をもっていると考えた。

7　ロック（英）は，国家の存在は個々人の意志を超えたものであり，家族と市民社会を統合した最高の人倫形態であるとした。

8　カント（独）は，理性的存在としての人間の内にある道徳法則と，それに従い自律的に行為する人格に認められる価値こそが人間の尊厳であると考えた。

9　ヘーゲル（独）は，責務を担う主体は，この私自身であるから，道徳は自己の実存にかかわる真理の次元で具体的に考える必要がある，とカントを批判した。

10　ベンサム（英）は，人間はもともと利他的であるから，刑罰による法律的な制裁よりも，良心に訴える内的な制裁のほうが重要である，と考えた。

11　マルクス（独）は，世界史とは自由の意識の営みであり，東洋では一人が，ギリシャでは若干の者が自由だったが，ゲルマンはすべての者が自由である，と考えた。

12　デンマークのキルケゴールは，主体的真理を求める実存のあり方の第一段階を，感性的快楽を追い求める美的実存と呼び，その生き方に絶望したとき，第二段階の宗教的実存，さらに最終段階の倫理的実存に目覚めていくと説いた。

13　ニーチェ（独）は，強者を否定し弱者を讃えるキリスト教の道徳は，強者に対する弱者のルサンチマン〔怨み〕から生まれたものであり，それに代わる新しい価値を創造しなければならないと説いた。

14　ハイデッガー（独）は，人間は，誰もが自分の死を引き受けねばならず，死の自覚を介して，初めて本来的な自己のあり方を獲得することができるとした。

15　サルトル（仏）は，ペスト流行という深刻な災難に見舞われたアルジェリアの町を舞台に，絶望的な状況にあっても，不条理な運命に対して人々が連帯・抵抗し，人間として最後まで誠実に生きることの尊さを小説のなかで描き出した。

16　ジェームズ（米）は，真理というものは，自分にとって役立つものであり，個別的・相対的であるとともに条件的なものだと考えた。

17　シュヴァイツァーは，生命は神に通じる神秘的なものであるから，人間を含むすべての生命に対して愛と畏敬の念をもつべきであり，そのことによって倫理の根本原理が与えられると説いた。

18　フロイトは，神経症の治療や夢の研究のなかで，近代の文明の発展を支えてきた人間の理性の奥に，意識的に統御できない無意識の存在を発見し，エス〔イド〕によって本能や衝動が抑圧されるとした。

19　ユングは，個人的無意識と集合的無意識とを区別し，宗教的象徴は，集合的無意識の中に存在する元型〔アーキタイプス〕が意識によってイメージとして把握されたものであるとした。

20　ハーバーマス（独）は，コミュニケーション的合理性により，議論を通じて強制を伴うことなく合意をつくり出すことができると論じ，人と人とのコミュニケーションにおいて働く対話的理性に目を向けた。

21　ウィトゲンシュタインは，言語の理解を超える語りえぬものについては，沈黙せねばならないと考えた。。

22　レヴィ＝ストロースは，いわゆる未開社会の研究を通じて「野生の思考」のうちに自然と文化を調和させる可能性を見いだし，西欧近代文明の思考方法に根本的な反省を迫った。

23　フーコーは，近代以降の西洋文明は，社会の規範から逸脱したものを非理性的な「狂気」として排除し，人間の理性を絶対視してきた。そして，日常的な権力関係を通して，社会に順応する人間を生み出し，人間を規格化してきた，と考えた。

24　ロールズ（米）は，格差が許されるのは，それが公正な競争によって生じ，かつ，最も恵まれない人々の生活の改善につながる場合に限られると主張した。

25　出生前診断によって，男女の判別や産み分けはまだできないが，胎児の障害の有無を知ることが部分的に可能になった。しかし，出生前診断が命の選別や新たな優生思想につながるのではないか，という批判もある。

26　認知症などで本人の意思を確認することが難しい人の場合には，本人の意思を推量するのではなく，医学的判断を優先することが求められる。

27　レイチェル＝カーソンは，農薬など有害な化学物質の大量使用が生態系の破壊へとつながり，やがては人間を含む全生物の死滅へと至ることに警鐘を鳴らした。

28　フロンガスは，人体には直接害を及ぼさないが，間接的に健康被害や環境破壊を引き起こすので，その使用について規制が設けられた。

29　地球温暖化防止京都会議（1997年）では，経済の発展状況にかかわらず，全参加国に対して一律に温室効果ガスの排出削減を求めることが定められ，排出量取引などのメカニズムが認められた。

30　結婚後も旧姓を名乗ることを望む女性が増えたため，夫婦同姓か別姓かを選ぶことのできる選択制が日本で導入された。

31　フェミニズムは，女性の権利拡張を進めるだけでなく，ジェンダーに基づく差別や偏見を問い直している。

32　インターネットが世界を等しく覆ったため，先進国や一部の個人が情報を独占することがなくなり，国や個人の間での情報格差は狭まった。

33　サイードは，近代西洋社会は，東洋を自分たちとは正反対の，後進的で神秘的な他者と見なすことで，自分たちは先進的で文明化されているという自己像をつくり上げてきたと批判した。

34　児童の売買や児童労働は，当事国では問題化しにくいため，国際的な調査とそれにもとづく支援が不可欠である

第５講　解答

1	○	2	○	3	○	4	×	5	○	6	×	7	×	8	○
9	×	10	×	11	×	12	×	13	○	14	○	15	×	16	○
17	○	18	×	19	○	20	○	21	○	22	○	23	○	24	○
25	×	26	○	27	○	28	○	29	×	30	×	31	○	32	×
33	○	34	○												